

FOCUS UP WIDE

自ら望んだ“古巣復帰”というイバラの道。  
「いつだって波乱万丈」な清水弘子のボウリング人生



時の流れに勝る人生の演出家はいない、とつくづく思う。ボウリング界を揺るがせた女子プロ分裂騒動から11年余り。“魅惑のレフティ”清水弘子がJPBAのアプローチに帰ってきた。今はもうあの騒動を、清水の過去の栄光を知らないボウラーも増えてきたが、古巣復帰がいろいろな意味でイバラの道であることに変わりはない。「私は元々ヒールキャラ(苦笑)。戻って頑張ると決めた以上は、前を向いて進むだけです」と清水は言う。

元JPBA38期生

20代の大半は全日本ナショナルチームの中心メンバーとして活躍。JPBAのオープン大会でも2勝するなど、アマチュア時代の輝かしい戦歴は枚挙にいとまがない。28歳のとき、同じくナショナルチームメンバーだった山本勲とともに実技テスト免除でプロ入り。JPBA38期生(ライセンスNo.405)として2005年にデビューした。ちなみに、当時の同期には吉川朋絵、佐藤多美、アリス曲淵、男子(44期)では山本のほかに山下昌吾、ボウリングライターとしても活動する正田晃也らがいる。旧ライセンスでの活動期間は正味4年半。清水はその間に14勝を挙げ(別表参照)、06、07年の2シーズンはポイント、



▲ROUND1 Cup Ladies優勝当時の清水。これが以前の在籍時代最後の優勝だった(09年10月10日、ラウンドワンスタジアム沖縄宜野湾店)

獲得賞金、アベレージのランキング3部門でトップを独占する3冠女王にも輝いた。しかし09年、同業スポンサー間のトラブルを契機に女子プロ分裂騒動が勃発。翌10年に新団体LBO(日本女子ボウリング機構)が発足する。悩みに悩んだ末、JPBAを退会してLBOに転じたが、同団体はわずか3年で解散。清水は「プロ」の肩書を失ってしまう。

“就職”そして“結婚”

行き場をなくした清水に手を差し伸べたのは、多数のボウリング場やプロショップを運営するVEGAの鳥海雅仁氏(取締役副社長)だった。鳥海氏は清水を雇い入れ、千葉中央店に配属する。「VEGAでは何でもやっています。メインは企業営業とLTB(ボウリング教室)だけど、フロントにも立つし、リーグも9本くらい持っている。たまにメカにも行きますよ(笑)」合間を縫ってJBP(ジャパン・ボウリング・プロモーション)主催のPBAリージョナルツアーにも参戦したが、競技会で投げる機会は激減した。

「最初のうちは自分がJPBAのプロだったことを知らないお客さんも多かったですね。LTBのお客さんには『先生』と呼ばれていましたし(苦笑)。知られるようになったのは、私が優勝した六甲クイーンズ(05年)の映像がYouTubeのボウリングチャンネルで流れてから。それまでチャレンジはやっていなかったけど、それからはやるようになりました」

さらに大きな転機が2017年、40歳のときに訪れる。人生の伴侶が現れたのだ。出会いの場は、何と交通事故の現場だった。ある日、実母が運転するクルマで国道357号線を走行中、対向車線のクルマの横転事故に遭遇。そのとき、

事故を起こした運転者の連絡を受けて現場にやってきたのが清水のご主人だという。

「ケガ人の搬送先が、私が世話になっている整形外科だったので、母が主人をクルマに同乗させて送っていったのがきっかけでした。私が一人娘なので婿に入ってくれたのですが、大らかな性格で、ものすごく助けられています。VEGAに居られたこと、主人と出会って結婚できたことは、この10年でとても大きなことでしたね」

合格の1週後に実父が他界

分裂騒動以降、退会者に対して長く閉ざされていたJPBAの門戸が昨年ついに開かれた。再受験が可能になったと知ったとき、清水は「すぐに受けようと思った」という。

一度飛び出した古巣に帰るというのは、さらなる新天地に向かっていく以上に覚悟の要る選択だ。まして清水は実技テスト免除でプロ入りしたエリートボウラー。プライドが邪魔したとしても不思議ではない。

「戻ると決めた理由はいろいろあります。私自身がもう一度試合(公式戦)に出てみたかったこと。その姿を両親に見せてあげたいと思ったこと。JPBAのワッペンを付けていたほうが仕事上も分かりやすいということ。これまでずっと中途半端な立場でVEGAにも迷惑をかけていましたから。あとは(LBOの要職にあった)自分がまず手を挙げないと、だれも受けないだろうという思いもありましたね」

だが、コロナ禍によってプロテストは中止に。1年延びても気持ちが変わることはなかったが、かねてからガン闘病中だった実父の病状が悪化し、環境的には厳しくなっていた。

「大腸にガンが見つかったのは4年前。それがあちこちに転

移して、毎年切除手術を受けていました。去年の9月に肝臓を切ったとき『余命は半年』と言われてたけれど、思ったより長く元気でいてくれたんです。身の回りのことは全部自分でやっていました。でも、今年の3月28日にお風呂場で意識がなくなって入院。コロナの関係で入院中に何かあるともう会えなくなるので、4月11日に退院して、自宅で緩和ケアをすることに。私たち夫婦は実家から歩いて2分くらいのマンションに住んでいて、毎日行ったり来たりで生活でしたが、いちばん大変だったのは母だと思っています」



▲JPBA姫路副会長からライセンス交付を受ける。清水は公式戦における姫路の昨今の活躍について「副会長の仕事をこなしながらあれだけの成績を残しているのは本当にすごいと思います」という(5月28日、東京ポートボウル)

そんな状況下で、清水は「初体験」のプロテストを見事クリア。JPBA53期生として新たな一歩を踏み出す。だが、ライセンス交付式が行われた5月28日からちょうど1週間後の6月6日午前、実父は息を引き取った。

「出張中だった主人が5日に帰ってきて、一家全員で最期を看取ることができました。私は5、6日と午後からVEGAで“プロテスト合格祝いチャレンジ”が入っていて、看取ったその日も投げに行きました」

「角が生えてない!」?

“帰り新参”の清水に特別扱いはない。6月11、12日に父

の葬儀を済ませると、翌週の15日にはこれまた初体験の順位戦が控えていた。

結果は119名中の21位。優先順77位を確保し、今年下半期に予定されている公式戦のほぼすべてに出場が可能となった。

「20位くらいに入れば全部の大会に出られると思った結果の21位なので、自分としては『とりあえずこれでよし』と。プロテストに向けて投げ込んできたのが大きかったですね」

それでも、今のまま公式戦に行っても勝てるとは思っていない。

「体力的には確実に衰えているので、それをカバーしたり、常にカラダをケアしていく必要がありますね。試合勘も鈍っていると思うので、それをどこまで取り戻せるかという課題もある。このあいだ仕事で行ったボウリング場に私服で立っていたら、お客さんに『気がつかないね』と言われたんです。『角はアタッチメントで、いつでも着けられるから』と返したんですが、結婚してからは完全に“パート主婦”の生活だったので(笑)、たぶんプロとしてのオーラも薄くなっているんですよ。そのへんもしっかり取り戻していかないと」

激動の日々だったここ数カ月の疲れが出たのか、軸足の右膝に原因不明の腫れと痛みを抱えた状態で臨んだ「初陣」の六甲クイーンズは、予選10Gで終戦となった(総合82位)。優勝者は、清水が「みんな若くて勢いがある。今年の子たちはホントにすごい」と評する同期生の一番星・中島瑞葵。母娘ほどに年の離れた新しい仲間の活躍を見て負けじ魂に火がつき、清水の頭から再び角が生えてくる日も、多分そう遠くはないだろう。

清水弘子のJPBA獲得タイトル

年度	優勝大会	会場	準優勝者
2005	第21回六甲クイーンズオープン	神戸六甲ボウル	金田 恵子
2006	DHCツアー05/06第6戦	星ヶ丘ボウル	谷川 章子
	宮崎プロアマオープン	宮崎エースレーン	森 ルミ
	BIGBOX東大和カップ	BIGBOX東大和	斉藤志乃ぶ
	DHCツアー06/07第1戦	柿田川パークレーンズ	稲橋 和枝
	第38回全日本女子プロ選手権	東京ドームボウリングセンター	堂本 美佐
2007	第1回MKチャリティカップ	MKボウル上賀茂	菱甲 恵子
	DHCツアー06/07第4戦	水島国際ボウリング会館	板倉奈智美
	第2回MKチャリティカップ	MKボウル上賀茂	谷川 章子
2008	群馬オープンレディース	桐生スターレーン	板倉奈智美
	軽井沢プリンスカップ	軽井沢プリンスボウル	中島 政江
	千葉女子オープン	千葉リバーレーン	W・マックファーンソン
2009	東海女子オープン	岐阜グランドボウル	吉田真由美
2009	ROUND1 Cup Ladies	ラウンドワンスタジアム沖縄宜野湾店	鈴木 忍